

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 北朝鮮からの便り

先日、北朝鮮に住む男性（56歳）から手紙が届きました。

「私は、祖父母に連れられ、1960年、小野田に父（今年80歳）、母（79歳）と姉（59歳）を残して、北朝鮮に移住した者です。祖父母は既に他界し、この年になって、日本に残した肉親（父母や姉）がとても恋しく、何とか探し出したいのです。どうか力になってください。お願いします。」母と姉の当時の住所と、日本名が付記されていました。父の住所は大阪になっていて、出稼ぎかなと思われました。

今、政治問題になっている拉致被害者のことが頭をかすめました。力になれることも限られますが、どうか見つけられるといいですね。

それにしても、国交がなくても郵便物は届くことを知って、何故かホッとしました。

■ ある投書

私の自宅に、ある市民から投書がありました。「子どもの遊具に興味を持つ者です。江汐公園の冒険の森はすばらしかったです。特筆すべきは、山の最上部にある木造の遊具です。近年めつきり姿を消しつつあります。中でも圧巻は中央にそびえるピラミッドのようなジャングル・ジムです。こんな巨大な木造のジャングル・ジムは、他では見られません。…」

みなさんも、江汐公園の冒険の森やジャングル・ジムを一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

■ 有帆菩提寺山磨崖仏の製作時期

有帆菩提寺山磨崖仏の製作時期は、長年、奈良説か昭和説かで、大きく揺れてきました。

昭和62年、小野田市史「民俗と文化財」の発刊にあたり、「奈良仏の有無は別として、岩崎寺中興の祖『木雲素欣和尚』の時代（1682年）にはすでにあった。これに宝舟師が手を加え顕彰したものと考えられる」と認定し、これを当時の小野田市教育委員会の公式見解としています。しかし、この見解に異論が出たことから、学術的に製作年代を特定するため、平成17年3月に有帆菩提寺山磨崖物調査委員会を設置し、各分野の専門家による調査研究を行いました。その報告書（平成20年3月提出）でも、製作された時期を特定するには至りませんでした。

今後研究が進めば製作の時期が特定できるかもしれませんが、それまでは製作時期が不明のまま、大切に保存していくとともに、観光事業などに使わせていただきますので、関係者のみなさんのご了解を得たいと思います。

■ 第10回市民文化祭川柳大会から

課題「夢」（山陽小野田市長賞）

「夢は宇宙へ 星のロマンを追いながら」

中前 幸子 作

